

# 2010年度 第2四半期 決算説明会

2010年11月1日

富士電機ホールディングス株式会社

コンポーネント品の物量増に加え、構造改革効果により営業損益が大幅に改善

(単位:億円)

	2009年度 Q2累計	2010年度 Q2累計	増減
売上高	2,912	2,975	+63
営業損益	-205	-110	+95
経常損益	-238	-167	+71
特別損益	60	239	+180
法人税等	-0	57	+57
少数株主持分	-16	-2	+14
四半期純損益	-163	17	+179

平均為替レート US\$	¥ 95.49	¥ 88.95	¥ -6.54
平均為替レート EURO	¥ 133.16	¥ 113.85	¥ -19.31

## 営業損益

物量増他	+108	研究開発費増	-43
コストダウン	+74	価格ダウン	-40
経費減	+44	人件費増	-30
資本費減	+13	為替影響	-20
		コストアップ	-11

計 +239

計 -144

## 営業外損益

為替影響	-32 (-7 → -39)
金融収支	+8 (-19 → -12)

## 特別損益

投資有価証券売却益	+307 (0 → +307)
事業構造改革費用	+25 (-25 → 0)
固定資産処分損	+5 (-6 → -1)
工事進行基準適用影響	-59 (+59 → 0)
固定資産売却益	-39 (+39 → +0)
投資有価証券評価損	-24 (-2 → -26)
資産除去債務適用影響	-23 (0 → -23)

(単位:億円)

第2四半期累計	売上高			営業損益		
	2009年度 Q2累計	2010年度 Q2累計	増減	2009年度 Q2累計	2010年度 Q2累計	増減
エネルギーソリューション	346	237	-110	9	-27	-36
環境ソリューション	1,191	1,150	-41	-17	-45	-28
半導体	306	420	+113	-66	18	+84

▶ **エネルギーソリューション**

前期の受注減の影響を受け、売上高、営業損益ともに前年同期を下回る。

▶ **環境ソリューション**

【産業】国内大型設備投資の抑制や海外大口案件の端境期により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回る。

【社会】売上高は、大口案件の減少があったものの、電源事業統合の効果により前年同期並。営業損益は大口案件の減少により下回る。

【輸送】中国・アジアを中心に設備投資需要に支えられ、インバータを主とした搬送システムが好調に推移し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回る。

▶ **半導体**

売上高は前年同期を大幅に上回り、営業損益は売上増に加え、前期の構造改革効果により大幅に改善し黒字化。産業分野は、中国を中心とした旺盛な設備投資需要に加え、欧州の新エネルギー投資需要により大幅増加。自動車分野は、国内・海外市場ともに好調に推移。電源分野は、アジア市場を中心に前年同期を上回る。

(単位:億円)

第2四半期累計	売上高			営業損益		
	2009年度 Q2累計	2010年度 Q2累計	増減	2009年度 Q2累計	2010年度 Q2累計	増減
器具	185	315	+130	-38	10	+47
自販機	441	398	-43	-22	-24	-2
ディスク媒体	160	198	+38	-67	-23	+44
その他	509	514	+4	5	-4	-9
消去または全社	-228	-257	-29	-10	-16	-5
合計	2,912	2,975	+63	-205	-110	+95

➤ **器具**

中国・アジア向け需要増を背景として、売上高は前年同期を大幅に上回る。営業損益は売上増に加え、前期の構造改革効果により大幅に改善し黒字化。

➤ **自販機**

飲料メーカーの投資抑制により売上高、営業損益ともに前年同期を下回る。

➤ **ディスク媒体**

HDD市場は第1四半期に回復基調となったものの、第2四半期に在庫調整局面となり、当社においても低調に推移。第2四半期累計では、売上高は前年同期を上回り、営業損益は前期の構造改革効果により大幅に改善。

売上高は下回るものの、営業損益はコストダウン、経費削減により計画通り

(単位:億円)

	2010年度Q2累計		
	予想(7/30)	実績	増減
売上高	3,130	2,975	-155
営業損益	-110	-110	0
経常損益	-150	-167	-17
四半期純損益	35	17	-18

平均為替レート US\$	¥ 91.01	¥ 88.95	¥ -2.06
平均為替レート EURO	¥ 116.00	¥ 113.85	¥ -2.15

## 売上高

エネルギーソリューション	+2	環境ソリューション	-65
器具	+25	半導体	-20
自販機	+8	ディスク媒体	-52
		その他	-16

## 営業損益

コストダウン	+8	物量減他	-31
研究開発費減	+22	為替影響	-9
資本費減	+10		

計 +40

計 -40

## 営業外損益

為替影響	-19 (-21 → -39)
金融収支	+1 (-13 → -12)

(単位:億円)

第2四半期累計

	売上高			営業損益		
	予想(7/30)	実績	増減	予想(7/30)	実績	増減
エネルギーソリューション	235	237	+2	-40	-27	+13
環境ソリューション	1,215	1,150	-65	-45	-45	0
半導体	440	420	-20	25	18	-7
器具	290	315	+25	5	10	+5
自販機	390	398	+8	-25	-24	+1
ディスク媒体	250	198	-52	-5	-23	-18
その他	530	514	-16	-5	-4	+1
消去または全社	-220	-257	-37	-20	-16	+4
合計	3,130	2,975	-155	-110	-110	0

▶ **エネルギーソリューション**

売上高はほぼ計画通り。営業損益はコストダウン、経費削減等により計画を上回る。

▶ **環境ソリューション**

プラント案件の下期への延伸等により売上高は計画を下回るが、営業損益はコストダウン、経費削減等により計画通り。

▶ **半導体**

為替の円高影響により、売上高、営業損益ともに計画を下回る。

▶ **器具**

中国・アジアの好調な設備投資需要により、売上高、営業損益ともに計画を上回る。

▶ **自販機**

通貨関連機器の増加により売上高は計画を上回る。

▶ **ディスク媒体**

HDD市場が第2四半期に在庫調整局面となり、売上高、営業損益ともに計画を大幅に下回る。

## 2010年度第2四半期末 連結貸借対照表

売上債権の回収、投資有価証券の売却により金融債務を削減

(単位:億円)

資産の部	10/3/31	10/9/30	増減
現金及び預金	373	698	+324
売上債権	2,231	1,528	-703
棚卸資産	935	1,211	+277
その他	618	613	-5
流動資産 計	4,157	4,049	-107
有形固定資産	1,762	1,711	-50
無形固定資産	106	102	-4
投資その他の資産	3,063	1,942	-1,121
固定資産 計	4,930	3,755	-1,175
繰延資産	2	2	-1
資産 合計	9,089	7,806	-1,283

負債、純資産の部	10/3/31	10/9/30	増減
買入債務	1,317	1,114	-203
金融債務	3,598	2,836	-761
その他負債	2,213	2,194	-19
負債 合計	7,128	6,145	-983
資本金	476	476	—
資本剰余金	467	467	0
利益剰余金	420	424	+3
自己株式	-71	-71	-0
株主資本	1,292	1,296	+3
評価・換算差額等	496	192	-305
少数株主持分	173	174	+2
純資産 合計	1,961	1,662	-300
負債・純資産 合計	9,089	7,806	-1,283

自己資本比率(%)	19.7	19.1	-0.6
ネットD/Eレシオ(倍)	1.8	1.4	-0.4

売上債権の回収、投資有価証券の売却によりフリー・キャッシュ・フローの大幅黒字を確保

(単位:億円)

	2009年度 Q2累計	2010年度 Q2累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	-28	241
投資活動によるキャッシュ・フロー	36	867
フリー・キャッシュ・フロー	7	1,108
財務活動によるキャッシュ・フロー	-471	-784
換算差額等	-3	0
増 減	-467	324

売上債権の回収

投資有価証券の売却

CP・借入金の返済

現金及び現金同等物の期首残高	854	373
現金及び現金同等物の期末残高	387	697



為替の悪化影響をコストダウン、経費削減で吸収し営業損益は前回予想通り

(単位:億円)

	2010年度通期		
	前回予想 (7/30)	今回予想 (10/29)	増減
売上高	7,200	7,200	0
営業損益	160	160	0
経常損益	135	135	0
当期純損益	260	260	0

平均為替レート US\$	¥ 90.50	¥ 86.98	¥ -3.52
平均為替レート EURO	¥ 115.50	¥ 109.42	¥ -6.08

下期の前提為替レート

	US\$	EURO
前提為替レート	¥ 85.00	¥ 105.00
1円影響*(億円)	2.0	0.5

\*営業損益ベース

【参考】

前回の前提為替レート	¥ 90.00	¥ 115.00
------------	---------	----------

(単位:億円)

通 期	売上高			営業損益		
	予想(7/30)	予想(10/29)	増減	予想(7/30)	予想(10/29)	増減
エネルギーソリューション	730	715	-15	10	20	+10
環境ソリューション	3,000	3,020	+20	85	105	+20
半導体	880	865	-15	60	65	+5

## ▶ エネルギーソリューション

売上高は計画を下回るものの、営業損益はコストダウン、経費削減等により計画を上回る見通し。

## ▶ 環境ソリューション

輸送ソリューションは、インバータを主とした搬送システムが好調に推移し、売上高、営業損益ともに計画を上回る見通し。産業ソリューションおよび社会ソリューションは、売上高は計画通り。営業損益はコストダウン、経費削減等により計画を上回る見通し。

## ▶ 半導体

産業向け需要は好調に推移する一方、パソコン、テレビ向け電源の需要低迷および為替の円高影響により、売上高は計画を下回る見通し。営業損益は為替の悪化影響をコストダウン、経費削減等で吸収し、計画を上回る見通し。

## 2010年度通期予想 部門別売上高・営業損益②

(単位:億円)

通 期	売上高			営業損益		
	予想(7/30)	予想(10/29)	増減	予想(7/30)	予想(10/29)	増減
器具	580	625	+45	10	25	+15
自販機	815	880	+65	10	15	+5
ディスク媒体	550	445	-105	10	-45	-55
その他	1,225	1,170	-55	20	15	-5
消去または全社	-580	-520	+60	-45	-40	+5
合計	7,200	7,200	0	160	160	0

▶ **器具**

中国・アジアを中心とする設備投資需要に支えられ、売上高、営業損益ともに計画を上回る見通し。

▶ **自販機**

自販機を中心に売上高、営業損益ともに計画を上回る見通し。

▶ **ディスク媒体**

HDD市場の在庫調整影響による物量減に加え為替影響により、売上高、営業損益ともに大幅に下回る見通し。

今期中間配当は1株当たり2円に決定

(単位:円)

	中間	期末	年間
2008年度実績	4.00	0.00	4.00
2009年度実績	0.00	1.50	1.50
2010年度予想	2.00	未定	未定

1. 本資料および本説明会に含まれる予想値および将来の見通しに関する記述・言明は、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性および事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
2. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、弊社の株式の売買を勧誘するものではありません。
3. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。